

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	石川 亮子
主な担当科目	音楽美学,課題研究Ⅰ,課題研究Ⅱ,課題研究Ⅲ,器楽の歴史と作品,鍵盤音楽の歴史と作品,鍵盤音楽の歴史と作品Ⅱ,原典講読研究Ⅰ,原典講読研究Ⅱ,西洋音楽史Ⅱ,西洋音楽史特殊講義,西洋音楽通史
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	①明快でわかりやすく学生の興味を引き出す授業 ②公平で公正な成績評価 ③ICTを活用したオンデマンド授業の構築 ④留学生の興味を引き出す授業の構築
2025年の教育に関する自己評価	①と②については、教員として一貫して取り組んできたことである。③については、具体的には「西洋音楽史Ⅱ」、さらには今年度から「西洋音楽通史」の科目が開始された。両科目ともオンデマンドの動画作成はほぼ完成してきた一方で、課題のやり取りや質問の回答とディスカッション等について、さらにやり方を検討していく必要があると感じている。また留学生の増加(とりわけ修士課程)に伴い、いかに留学生の授業内容への興味を引き出し、グローバルに音楽に取り組むための素地を提供しうることができるか、集中的に取り組んでいきたいと考える。
2025年のFD活動に関する自己評価	FD全体研修会だけでなく、分科会FD研修会についても、すべて出席し、様々な専門やコースの先生方と有意義な情報交換、意見交換ができるように務めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	留学生を含めた多様な背景を持つ学生が学んでおり、ひとりひとりの事情を理解しながら丁寧に向き合うことを常に心がけている。また、ユニバやTeamsを活用して、小テスト等を定期的の実施している。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1863 教員名:石川 亮子

1)アンケート結果に対する所見

昨年度から開設された「西洋音楽通史」について、「学ぶ意義がわからない」という意見が自由記述にみられた。クラシック音楽を専攻しない学生や留学生が増加し、音楽大学で学ぶ意義そのものが多様化するなかで、現在の音楽につながる出発点をたどり、その歴史的な変遷を知ることの醍醐味を十分に伝えられていない現状がある。今後は、過去の音楽が現在の音楽文化にどのようにつながっているのかを示しながら、音楽史を学ぶ意義をより実感できる授業を目指したい。

また、初年次教育という観点から、「西洋音楽通史」と同様に「鍵盤音楽の歴史と作品」についても、「まとめのプリントが欲しい」といった自由記述があった。講義を聴き、自ら内容を整理しながら理解していく姿勢を身につけることも、大学教育において重要である。今後は、学生が主体的に授業内容を整理し、理解を深めることができるよう、講義内容や資料の提示方法について工夫していきたい。

一方、「西洋音楽史Ⅱ」については、オンデマンド 8 回と対面授業 6 回を組み合わせた授業運用を行っているが、「非常にやりやすい」という自由記述がみられた。学生が自分で時間を見つけて学ぶことができるオンデマンド授業の利点を取り入れながら、対面授業との組み合わせによって、より柔軟で効果的な授業を展開できる可能性について、引き続き検証していきたいと考える。

2)要望への対応・改善方策

100 分授業であることを踏まえ、授業の導入とまとめの時間をより効果的に活用していきたい。特に昨年度、授業終了前の 10 分間について、その日の内容をまとめる時間を設けたところ、学生が集中して授業を振り返っている様子がみられたため、今後も次回の授業への興味・関心につなげられるよう工夫する。

また、より対話型の授業を心掛けていきたい。出席カードの裏面や確認小テスト(Forms)などを活用し、質問やさらに知りたいと感じたことを提出してもらい、次回の授業で取り上げて回答するなど、さまざまな形で学生とのコミュニケーションを図っていく。

3)今後の課題

第 14 回の授業内で試験を実施するため、第 13 回の授業では、学生の意識がすでに試験に向けられており、授業アンケートへの呼びかけが十分に届かない場合も少なからずあるように思われる。今後は、授業アンケートが授業改善につながる重要な機会であることを学生と共有することで、アンケート回答率の向上を目指したい。

以 上